

5人の子どもたちが主人公!! ～ママがつづるステキな絵日記～

三井 攝さん ～富士宮市在住～



みつい せつ/ピアノ塾経営
一男四女の母親。「418こちら情報部」というミニコミ誌の中で「育児日記 たんぽぽだより」を掲載し、地域で大変好評を得ている。

家族の協力があってこそ
夫とは、山梨の交響楽団の奏者として知り合いました。いつの日か夫との共通の趣味である音楽でホームコンサートを開くことが夢です。
私は子どもが好きで、五年間幼稚園に勤めていました。ピアノの講師になったのは結婚してからです。夫自身も四人兄弟で、結婚当初から「子どもは多いほうがいいね」とよく話し合っていました。夫の父が単身赴任だったせいか、小さい頃から母の手伝いをしてきたようです。だからといって、育児の手伝いに抵抗がなかったかということでもありません。最初は、保育園に子どもを連れていくのも、はばからずたくらいです。でも慣れてしまいましたにだけに連れていくようになるようになりました。

優しい人です。私は、両親に叱られた経験がないので、肝心な時に怒ることができないので、その点は夫がしっかりカバーしてくれれます。子どもが寝た後、夫婦で子育てについてよく話し合っています。夫は私の精神的な支えになっています。
私は常々、夫にこうして欲しい、というよりは「私、できないんだけれど」と言うように心がけています。私一人だけがむしゃらにがんばらないで家族それぞれの協力があることにより五人の子育てはできるのだと思います。
たんぽぽ日記が私を変える
私は、悩みを外にだせない性格なので毎日日記をつけています。これは、長男遼太郎が生まれた時からずっと書き続けています。子どもたちの歴史をそのまま垣間みるのでできる絵日記は親にとっても子にとっても生涯の思い出となると思います。このたんぽぽ日記を書くことによって私自身おだやかに子どもたちを見ることができるようになった気がします。

この日記が「418こちら情報部(富士宮市のミニコミ誌)」に載るようになったのは、知人が家に遊びに来て、私の育児日記を見たのがきっかけです。また掲載されるようになって周りの反響もかなりありました。あるお母さんから、「家だけではなかったのね」とか「家と一緒にだわ」というお手紙をよくもらいます。
日記を書くことによってストレスを発散し、それが多くの子育て中のお母さんを勇気づけることができたことととてもうれしく思っています。



左記の育児日記と写真は、「ミニコミ紙『418こちら情報部』(平成6年4月5日発行)」に掲載されたものです。

もは、机もないので、好きなプラモデルを作ること、何かやりかけの物をそのまま置いておくことも、出来ないでいました。
でも、これは、指導上の都合から、たまたまそういうめぐり合わせになっていたので、それに対して、①部屋や、ベッドを変えないこと②机を与えること③一日の中で五分でも良いから、生活指導の先生と二人だけの時間を持つこと。この三つの点をアドバイスしました。それを実行すること四ヶ月、やがてその子どもは、情緒が少しずつ安定し、学校にも登校するようになっていきました。これは、住まいや間取りを変えることで、ぎくしゃくした人間関係や、問題が矯正できたことを現わしています。また、これは「子どもの生活リトリリー」を安定させることが、情緒の安定につながる」という良い例です。
しかし、それだけでは、不十分なのです。子どもの人格を認め、個性を大切に育みながら、ひとりの人間として関わるのが、最も大切なことです。子どもに対して、過保護、過干渉では、たとえリトリリー(個室)を与えても、ぎくしゃくするばかりで自立をさせることは、逆行してしまいます。子どもが自立できるように育てるのは、親との関わりの中からのことです。
住まいをおして良い子育てをするということは、自分の子どものことを、よく見つけること、自分たちがどんな家族であり、どのようなライフスタイルを望んでいるのか、足もとをしっかり見つけることではないでしょうか。

あなたも応募してみませんか!
～平成6年度「静岡県住まいの文化賞」応募作品募集～

- 私の家を参考にしてという方/
- 自分たちのライフスタイルをまるごと家にしてしまった方/
- 私の家にぜひ遊びにおいてという方/…など

静岡県では、地域に溶け込み、個性と魅力のある県内の住宅を毎年募集しています。
女性の視点を生かした魅力ある作品をぜひお寄せください。

締切:平成6年11月30日水
応募先・問合せ:県住宅課 ☎054(221)3084

ワーキングマザーの子育て奮戦記

白井幸余さん ～富士宮市在住～



うすい さちよ / 製薬会社勤務

第4子出産後、会社で初めて1年間の育児休業を取得。仕事と子育ての両立は、肉体的にも精神的にも大変なことであるが「自助努力」でハードルを越えようと頑張っているワーキングマザー。

料・税金などを蓄えの中から持ち出し、会社に支払いに行きます。これまで、生活費をあるにまかせて使っていました。が、さつそく家計簿をつけ始め、節約を心掛けました。また、子どもがいることで外出もほとんどないことから、支出も次第に減っていききました。

一人目ができたとき、つわりがひどく一週間のうち四日も休む状態でした。その頃から、夫が見るに見かねて食事作りなど家事・子育てに関わってくれようになりました。今では夫の作る誕生日のケーキを、子どもたちがとても楽しみにしているほどです。

近くに住む義母が「女性が外で働くことは、すごいことだ！」と評価してくれ、子育て全般に手助けをしてくれます。義母は、最良の理解者であり、応援者です。また、子どもが長期病院通いの時は、義理の姉までも快く通院を手伝ってくれます。

保育園が休みの日は、仲良しのお母さんたちと通し合い家庭保育をしています。周囲のみんなに助けられ、とても恵まれた環境の中で子育てができることを幸せに思います。

東京に住む妹へ四人目の子どもができたことを話した時、まるで宇宙人のように言われてしまいました。この時富士宮市は子どもを育てやすい環境にあることを改めて認識しました。

お金もつけただけではない働き方をしたい

製薬会社は、日進月歩といってもおかげさまでなく、一年後復職した時、浦島太郎といった感覚になるかも知れません。私が大学で勉強したことを活かせるこの職場において、これからも自己実現を目指していきたいと思いま

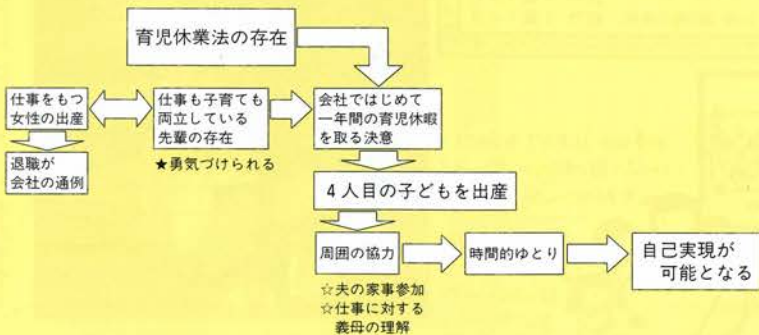
はじめて会社で育児休業を一年間とりました

製薬会社に勤務し、品質管理課の技術者として働いています。一年前から、育児休業制度を導入していますが、第四子目のときに社内ではじめて私が一年間取得することになりました。それは、長い期間を休むということは、仕事上、経済上など、いくつかの問題や不安はありましたが、上司・先輩のアドバイスを受け、また、夫ともよく話し合った結論でした。

女性が子どもを産むと退社するのが、ほとんどといった状況の中で、ある先輩が三人の子どもを産みながらも、しっかりと仕事を続けているのを目のあたりにして大変勇気づけられました。今回の育児休業が、この先輩同様後に続く人たちのために、当たり前のこととして受けとめてもらうきっかけになればと思っています。

経済的な面においては、休業中の一年間は無給なので、毎月給料日に保険

▶白井 幸余さんの場合◀



す。小さい子どもがいて働いているからこそ、お金もうけだけではない働き方をしていきたいと常々心掛けています。

それぞれの家庭での子どもの人数は、究極的には個人の問題です。子どもが多いか少ないかではなく、そこでどのように家族と子どもと関わっていくかが大事かと思っています。

また、私は夫との出会いのきっかけにもなった手話サークルをこれからも共々に、ライフワークとして続けていきたいと思っています。

専門家からのご意見

経済構造の変化にともなう
生き方と教育のゆくえ

小櫻 義明 さん



プロフィール
現職/静岡大学人文学部教授
専門/地域政策、経済政策
主な研究業績/静岡県における女性と経済(「静岡県の産業経済」静岡新聞社、1988)等

高度成長期には、高学歴が必要だった子どもを育てるにはお金がかかる。子ども一人あたり平均約二千万円。教育費にかかる負担が多すぎて子どもをつくれないう。これは、あなたが否定できません。なぜなら、産業の発達にはそれ相応の労働能力を必要とするからです。

つまり、ハイテク産業など日本経済の主要源には、高度の教育が絶対的に不可欠で、発展するには蓄積された上に新たな蓄積をしていかないと時代についてゆけないからです。問題なのは、社会が求める高度教育の負担をどこが受け持つかということです。

本来、教育方針というのは各家庭が独自に選択してゆくものであって、行政が介入するものではないと思います。その上、社会が高度教育化を求めるといっても、既存の経済社会が経済利潤において求めている要素であって、国民一人一人の願望かといえば、そうともいえないのです。

実際、「少子化」「少産化」と大騒ぎしているのは、成長志向の強い戦前の男性たち。高度成長時代に家庭、妻、子どもとの交流など人間としての生活をすべて犠牲にしても、今日の日本経済を築いたと自負し信じてきた世代です。その世代が今の政財界の重鎮であり、オビニオンリーダーとして「少子化」「逆ピラミッド型人口社会の到来」と大騒ぎしているのです。

あたり前のことの中に楽しさが一杯ある ～「かおる、父さんと遊ぼうか」～

鈴木まもるさん ～下田市在住～



すずき まもる / 東京生れ 画家

主な作品/絵本「ぼくのしょうぼうしゃ」「やさいばけのパトロールたい」「クレーンクレーン」(偕成社)「ベンチがひとつ」「ゆきわたり」(講談社)「まえむきよこむきうしろむき」「どうなってるのこうなってるの」「ヘルシー家の人びと～四季の絵本～」「おもしろどうぶつずかん」(金の星社)さし絵に「おてつだいねこ」シリーズ(小学館)など

ことはないので、夫婦で一緒に考えて意志統一していこうと思いました。くい違う時は、何度も話し合うことで、お互いのことも良くわかります。最近育児に参加するお父さんが増えているのは家族のためにもお母さんのためにもいいことだと思います。

かおるが生まれてから、子どもを通して活発に絵を描けるようになった気がします。例えば、かおるは乗り物が好きですから、一緒に乗り物を見に行っているうちに、イメージをふくらませて描くようになりました。

子どものしぐさがおもしろい

かおるが生まれてから、日々の様子をラフスケッチしていたものを、東京に住む祖母の元へ送ると大変喜んでくれました。その絵が少しずつ評判になり「父さんの子育て絵日記Ⅰ、Ⅱ」として出版されました。各巻一、〇〇〇枚以上の絵で産まれてからの行動が記録されています。写真や文字では表現できないおもしろおかしい世界として子どもから、これから母親になる人、今子育て中の人、昔子育てをしたおばあちゃん達などいろいろな年代の人が楽しんで見てくれるようです。

おもしろいしぐさをしたとき、その場で描きとめることもありませんが、僕は、子どもの様子を見ているのが好きですから、昼間はむしろ、一緒に遊んでいます。かおるが寝てから描くことの方が多いですね。子どもは、毎日少しずつ変化しますから、それがおもしろいのです。物を創るときに、頭の中に何かひらめくものがあるように、かおるのしぐさが頭の中に入りイメージがわき、それを表現したいから描くといった感じでしょうか。かおるの発散しているものをうまくつかんで

この生活を楽しんで

もともと東京住まいでしたが、絵本画家の仕事だけでやっていこうと思っていた時に、知人が家を貸してくれると言ったので、思い切って伊豆まで来てしまいました。以前から、長野に友人達と建てた山小屋で、山の生活を楽しんでいましたから違和感はありません。

自分の子ども時代には、東京にも自然が残っていましたが、規模が違います。ここでの生活が、息子のかおるの成長にどんな影響を与えるのでしょうか。

また、ここは保育園や小学校の数も限られ、情報も選択肢も少ないので、かえって楽です。都会ではいろいろな情報が多すぎる気がします。

僕でできることは一緒にやってみよう

育児は妻だけでは大変だし、僕は家でできる仕事なので、できることは一緒にやってみようという気持ちでした。また、育児にはこれが正しいという

いるのかもしれない。読者からは「育児書に出ていないことが描いてあって安心する」などの手紙をよくいただきます。



「父さんの子育て絵日記Ⅰかおるちゃんがかっこよくなりました」
「父さんの子育て絵日記Ⅱかおるちゃんと山の友だち」
(婦人之友社)

伊豆半島、バサラ山の山荘に暮らしはじめた鈴木さんご夫妻。住みはじめてから3年目に生まれたかおるちゃんは、山や川、草や木、ニワトリ、ネコ、イヌに囲まれて、すくすくと育っていきます。0才から1才までの1巻、1才から2才までの2巻、絵本作家のお父さんが愛情をこめて画く、子育て絵日記です。

経済が成熟して「生き方の質を求める時代」

不思議なことに社会であれほど騒がれている少子化傾向を、女性たちはもっとさめた目でみています。

さきほど話したように、国民一人一人は自分の生活を犠牲にしてまでも、社会の経済発展を求めているわけではありません。お金はそんなになくても必要な分だけあればいい、もっと人間のな生き方がしたい、自分を活かせる生き方をしたいと思いはじめています。

この傾向は女性を中心に変わりはじめました。カルチャーセンターブームもそんな自分探しの表れですし、社会人を対象にした公開大学も、女性ならず男性までも自分の生き方を模索している表れです。

経済が成熟すれば、人は文化、生活の質を求める。これは先進国としてあるべく自然なプロセスなのです。

子どもの独自の才能を信じ、社会の受け入れ幅を変えてゆこう

いま「産業構造の空洞化による失業者の増加」がマスコミで叫ばれています。これは、自動車等の製造業の基盤がアジアや南アメリカ諸国に移行してゆくことによって、日本の主要経済基盤をどこにもってゆかかが問題になっているからです。今後は、高度なソフトウェアを生産してゆかざるをえなくなるでしょう。

そこで問われるのがやはり教育です。あるコンピュータ会社では「商品として差別化はかれる個性的なソフトウェアを開発できる人材がほしい。つまり、「あそび人間」がほしい」という基準でリクルートしているといえます。こうした傾向は大企業においても同じです。

このように、高学歴でなくても個性的な人材を社会は必要としてきています。しかし、残念なことに、家計費の中で教育費のウェイトの占める割合は依然として大きく、親のエントリー意識はまだまだ残っているといえそうです。

本当に大切なのは、親が子どもの独自の才能や能力を信じてあげることではないのでしょうか。自信をもって一緒に歩いてゆけば、きっと社会の受け入れ幅も広がってゆくはずです。

本・だ・な



出産から社会を見つめる旅に出発しよう

『赤ちゃんを産むということ』
 松橋恵子著 日本放送出版協会
 少し前まで、出産は、何か秘密めいたもの、あからさまに口にするのはばかられるものでした。しかし、この本を読むと出産というほんの小さい窓から、社会の在り方が全面的に見えてくるようです。



元気に働きながらおなかの子をスクスク育てるために

『子ども産みます 35歳・働く私の子産みどき』
 林寛子著 学陽書房
 新聞記者である著者の、子産み子育て体験記。妊娠中の幸福感、自然なお産への願望、誕生の感動、子どもへのいとおしさ、子育ての悩み…。著者のホンネは、女性たちへの励ましのメッセージとなるのでは？



子育てって、大変と思っているあなたへ

『子供の心が見える本』
 伊藤友宣著 PHP文庫
 こんな子に育てたい、こんな子に育ってくれたら…。親は子どもにあれこれ期待してしまいがち。本書は、カウンセリングの技法を取り入れた、過保護でも放任でもない子育ての仕方を実例を交えて紹介しており、読みやすい文庫本。



子どもを産み育てることをもう一度考えてみたい人に

『産みます 産みません シリーズ女の決断』
 グループPRIM編 NTT出版
 医療技術の進歩により避妊も出産も本人の意思によって選択できるようになりました。女性たちは出産をどうとらえているのでしょうか。産む産まないが個人の決断にゆだねられている今、女性たちに子どもをもつ意味を改めて考えさせてくれる本です。



父親が説く子育て論

『育児不安を乗り越えて』
 原田 正文著 朱鷺書房
 子どもの将来のために、今なにをすべきか。現代育児の大規模な追跡調査「大阪レポート」をまとめた著者が、小児・思春期専門の精神科医として、また父親として、実践的な子育て論を詳しく説明しています。



子育てのハードルは夫婦で乗り越えよう

『お子さま戦争』
 斎藤 茂男著 草土文化社
 元共同通信記者が現代の母親や子育て、早期教育の現場に取材したりレポート。この本を読むと女性が社会とのかかわりのなかで自分を磨き、人間として豊かになるためには何が大切かを考えさせられます。夫婦でぜひお読みください！

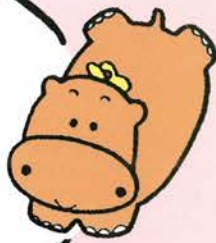


「Enjoy 子育てライフ」
 編集・らくだフレンズ
 「静岡子連れパワーアップ情報」
 編集・空飛ぶらくだ
 「浜松こども情報」
 編集・浜松こども情報の会

子育て中の仲間
 ア・ツ・マ・シ!!

「密室保育」なんて言葉があるくらい、子育て中の母親はとかく孤独。育児の悩みは子育て中の母親共通の悩みでもあります。そんな仲間が集まって、子育てに必要な地域の情報を集めた冊子が県下で三冊も出ています。これを利用するのはもちろんですが、あなたの町で新しい情報紙づくりに挑戦したりして、子育てのネットワークを拡げてみるのはどうでしょう。

相談するなら...



家庭・養育に関する電話相談は

子ども家庭110番

- ★賀茂地区 ☎0558(23) 4 1 5 2
- ★東部地区 ☎0559(24) 4 1 5 2
- ★中部地区 ☎054(273) 4 1 5 2
- ★西部地区 ☎053(458) 4 1 5 2

(受付時間 月～金曜日 9時～20時)

青少年の生活、学習、進路などについての電話相談は

ハロー電話「ともしび」

- ★東部地区 ☎0559(31) 8 6 8 6
- ★中部地区 ☎054(255) 8 6 8 6
- ★西部地区 ☎053(471) 8 6 8 6

(受付時間 月～金曜日 9時～19時)

就学前の子どもの教育、しつけ等の電話相談は

すこやか電話相談 ☎054(273) 3 7 1 5

保育所に関する相談は

各市町村の福祉事務所または福祉担当課で。

子どもの養育、育児、しつけ、障害など子どもについての悩みごとの相談は

県児童相談所(県民生事務所内)

- ★賀茂民生事務所
 - ▶ 下田市中531-1
 - ☎0558(24)2038
- ★東部民生事務所
 - ▶ 沼津市高島本町1-3
 - ☎0559(20)2080
- ★中部民生事務所
 - ▶ 静岡市有明町2-20
 - ☎054(286)9232
- ★西部民生事務所
 - ▶ 浜松市東田町87
 - ☎053(458)7189
- ★西部民生事務所掛川支所
 - ▶ 掛川市掛川551
 - ☎0537(22)7211

女性の生き方に関する総合的な相談は

- ★あざれあ相談室 ☎054(272) 7 8 7 9
- (受付時間 月～金 9時30分～15時30分)

働きたい女性、働く女性のための相談は

- ★東部就業女性センター
 - ▶ 沼津市高島本町1-3 東部総合庁舎
 - ☎0559(20)2182
- ★中部就業女性センター
 - ▶ 静岡市有明町2-20 静岡総合庁舎
 - ☎054(286)9250
- ★西部就業女性センター
 - ▶ 浜松市東田町87 浜松総合庁舎
 - ☎053(458)7245
- 働く女性ダイヤル(電話相談)
 - ★東部地区 ☎0559(20)2047
 - ★中部地区 ☎054(251)0047
 - ★西部地区 ☎053(454)0047

男女雇用機会均等法、育児休業法についての相談は

- ★労働省静岡婦人少年室
 - ▶ 静岡市追手町9-50
 - ☎054(252)5310

健康診査、保健相談、医療費助成などの相談は

- ★下田保健所
 - ▶ 下田市中531-1
 - ☎0558(24)2056
- ★下田保健所松崎支所
 - ▶ 賀茂郡松崎町江奈255-3
 - ☎0558(42)0262
- ★熱海保健所
 - ▶ 熱海市水口町13-15
 - ☎0557(82)9125
- ★修善寺保健所
 - ▶ 田方郡修善寺町小立野24-1
 - ☎0558(72)2310
- ★沼津保健所
 - ▶ 沼津市高島本町1-3
 - ☎0559(20)2112
- ★沼津保健所三島支所
 - ▶ 三島市南二日町8-36
 - ☎0559(75)3580
- ★御殿場保健所
 - ▶ 御殿場市二枚橋三枚畑287-16
 - ☎0550(82)1222
- ★富士保健所
 - ▶ 富士市本市場441-1
 - ☎0545(65)2156
- ★富士宮保健所
 - ▶ 富士宮市豊町18-5
 - ☎0544(27)1131
- ★清水保健所
 - ▶ 清水市辻4丁目4-17
 - ☎0543(67)1140
- ★静岡市中央保健所
 - ▶ 静岡市追手町10-100
 - ☎054(255)7811
- ★静岡市南保健所
 - ▶ 静岡市曲金3丁目1-30
 - ☎054(285)8111
- ★藤枝保健所
 - ▶ 藤枝市岡出山2丁目2-25
 - ☎054(646)5201
- ★島田保健所
 - ▶ 島田市野田1120-1
 - ☎0547(37)5291
- ★島田保健所榎原支所
 - ▶ 榎原郡榎原町静波2128-1
 - ☎0548(22)1151
- ★掛川保健所
 - ▶ 掛川市金城93
 - ☎0537(22)3264
- ★磐田保健所
 - ▶ 磐田市見付3599-4
 - ☎0538(37)2254
- ★天竜保健所
 - ▶ 天竜市二俣町二俣530-19
 - ☎0539(25)3141
- ★天竜保健所浜北支所
 - ▶ 浜北市平口1604-1
 - ☎053(587)6011
- ★浜名保健所
 - ▶ 浜名郡新居町新居3447
 - ☎053(594)3661
- ★三ヶ日保健所
 - ▶ 引佐郡三ヶ日町三ヶ日500-20
 - ☎053(525)0811
- ★浜松市保健所
 - ▶ 浜松市鴨江2丁目11-2
 - ☎053(453)6111

わとわあく No.25

発行 平成6年11月
 編集 静岡県女性総合センター
 住所 ☎422 静岡市馬淵1丁目17-1
 電話番号 ☎054-250-8107

表紙デザイン
 静岡県デザインセンター 小杉思主世

活かせる情報集めています!

こんなこと知っているで静岡県の生活がすこく
 楽しめる、イキイキ暮らせるという情報がありましたら、是非、女性総合センター『ねっとわあく
 編集部』までお知らせください!!
 この冊子は、次の皆さんが企画・編集しています。

- 伊賀 紀子さん(浜松市)
- 小沢 ふさ子さん(掛川市)
- 金津 万由美さん(浜松市)
- 君塚 礼子さん(富士宮市)
- 杉浦 美津子さん(浜松市)



この用紙は再生紙を使用しております。



静岡県